

まど

「加油(頑張れ)日本」。いったい何人から、この言葉をかけられただろうか。

昨秋から台湾・台中市の静宜大に留学している北広島市の小林良平さん(22)。「道文教大4年」は3月末から6日間、1人で台湾を一周した。「震

加油日本

災後、いち早く救援隊を出し、義援金を寄せてくれた台湾に、ありがとうと伝えたかった」

バスや列車を乗り継いで訪れた街。「皆さんが日本を心配し励ましてくれたことに、勇気をもらいました。謝謝」と書いた看板を手に沿道に立った。「台湾で地震が起きた時は日本が助けてくれ

た。次は恩返しする番」。「日本の復興を信じている」。見知らぬ人が、次々と話しかけてきた。

「少しでも被災地の力に」と、留学生仲間と募金活動も始めた。「学生だからお金に余裕はないのに、みんな快く寄付してくれました。泣きそうになりました」

1192枚準備した感謝のメッセージカードも街頭で配った。「国や地域は違っても、困っている人を助けたいという気持ちは同じ。それを実感しました」。留学期間はあと1カ月余りだが、台湾を離れるのが寂しくなってきた。

(佐野智子)

